

令和6年4月12日

実施報告書

文部科学大臣 殿

申請者（主催者代表）SOMPO美術館
団体名 公益財団法人SOMPO美術財団
代表者職・氏名 理事長・櫻田謙悟

展覧会における美術品損害の補償に関する法律に基づいて令和5年9月12日に文部科学大臣と美術品補償契約を締結した展覧会が終了しましたので、実施報告書を提出します。

1. 開催概要

展覧会名	ゴッホと静物画-伝統から革新へ	
開催施設名	会期	入場者数
SOMPO美術館	2023年10月17日～2024年1月21日	18万人
●開催概要		
1. 主旨・目的等の達成状況		
(1) SOMPO 美術館が収蔵するフィンセント・ファン・ゴッホ作《ひまわり》を中心に、静物画家としてのゴッホ作品とともに、ゴッホが影響を受けた 17 世紀のオランダから、同時代及びゴッホが影響を与えた没後の画家たちによる静物画で構成される展覧会を開催した。		
(2) 出展作品については、当館を含む国内外の美術館等24箇所から、ゴッホ作品25点、ゴッホ以外の作品44点の計69点を展示し、静物画家としてゴッホの実像を、多面的、立体的に紹介することができた。		
(3) その結果、当初の予想来場者数9万人を大幅に上回る18万2千人が来場し、当館で開催の展覧会では過去最高となる入館者数を記録した。		
2. 外部の展覧会評例		
(1) 美術手帖(2023年10月17日) 有名な《ひまわり》を基軸にしながらも、ゴッホのみならず広く西洋絵画における静物画の歴史を俯瞰する展覧会として、新たなゴッホ像を見つける手引きとなる展覧会。		
(2) 読売新聞(2023年11月14日) ゴッホの油彩画 25 点を含む静物画を中心に計 69 点を集め、その歴史を押さえながら、圧倒的な迫力で見る者をくぎ付けにするゴッホの色彩表現に至る道筋を探る。～色彩表現の実験作という一面もあった「ひまわり」～画業の中での代表作の位置づけを改めて浮き彫りにした。名作を一步引いて鑑賞する機会となった。		
(3) 日経新聞(2023年11月23日) ゴッホの静物画にフォーカスするという切り口が新鮮で、17 世紀オランダで描かれた数々の静物画と比較したり、あるいはゴッホ以降に登場する 20 世紀の画家たちが彼を土台にして次の時代へとどのようにステップアップしていったかが鮮やかに浮かび上がってくる。もちろんゴッホ自身の変化を見て取ることもできる内容(注:原田マハ氏対談)		
(4) その他 上記(1)から(3)の評例のほか、WEB サイト「美術展ナビ」等各電子媒体、朝日新聞・東京新聞等の新聞媒体等で取り上げられ、何れも好評を博した。		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

1. 保険料軽減について

- (1) 国家補償制度を活用しなかった場合の見込み保険料 6,426 万円
- (2) 国家補償適用後の損害保険料 4,316 万円
- (3) 軽減された保険料額 2,110 万円(上記(1)と(2)の差額)

2. 軽減された保険料の用途について

(1) 入場料軽減

- ・ 本制度の活用により入場料を一人当たり 200 円軽減し、入館者の経済的な負担軽減を図った。
- ・ その結果、本展の総有料入館者数 140,000 人分に対し総額 2,800 万円の入場料軽減となり、保険料軽減額の一部をこれに充当した。

(2) 展示作品の充実

- ・ ゴッホの代表作である、「水差し、皿、レモンのある静物」、「1足の靴」、「三冊の本のある静物」の借用に係わる費用、免責金額分保険料 200 万円、輸送費相当額 320 万円、計 520 万円を国家補償制度活用による保険料軽減額から充当した。
- ・ 上記3作品の借用により、本展出展作品の質の向上に効果があった

(3) 教育普及活動

- ・ 鑑賞ガイド及びジュニアガイドブックの作成費用、各々 80 万円及び 150 万円、計 230 万円を、同じく保険料軽減額から充当した。
- ・ 入館者向けに鑑賞ガイド及びジュニアガイドを無料配布することが可能となり、観覧者の展覧会主旨・内容の理解を深めることができた。

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

軽微なものを含めて、事故は特に発生しなかった。

4. 安全配慮に関する特別の対応

- (1) 海外からの借用作品の輸送について、リスクを分散させるため往路6便、復路5便の航空機に分散して輸送した。
- (2) 空港でのトラック積込・荷降作業にあたり、外部警備会社の警備員の立ち合いを手配した。また、一部高額作品の空港/美術館間の輸送について、同じく外部警備会社による伴走車を手配した。
- (3) 海外の美術館で発生している環境活動家等による示威活動・蛮行を未然に防止するため、観覧者の入館に当り、持込手荷物に関する目視検査を美術館1Fで実施した。

5. 紹介事例・今後の改善点等

1. 主催者の自己評価

- (1) 現存するゴッホの静物画は約170点といわれているが、その中から製作時期の異なる25点の静物画を一堂に展示することにより、静物画家としてのゴッホを多面的に紹介し、観覧者に対し秀逸な鑑賞機会を提供することができた。
- (2) あわせて、ゴッホの静物画の代表作である、当館収蔵の《ひまわり》とゴッホ美術館の《アイリス》を併設して展示し、両作品を比較しながら鑑賞するという希少な機会を提供することが出来た点についても、鑑賞機会の充実に寄与したものと認識する。
- (3) ゴッホの作品に加えて、17世紀のオランダから、同時代及びゴッホ没後にわたる、著名な画家たちの作品をあわせて展示することにより、静物画の流れの中でゴッホを位置づける内容の展示を実現できた。

2. その他(参考例、改善点等)

- (1) 特定の美術館のコレクション展と異なり、ゴッホ作品を中心に静物画にポイントを絞った展覧会を検討・企画した結果、借用先が多数・多方面(23箇所、4か国)に亘った。
- (2) その結果、借用交渉、ロジスティクス手配等、展覧会開催にあたっての事務処理等が非常に多岐に亘った点、今後の展覧会企画にあたり注意が必要と認識する。
- (3) 本展開催における、海外からの作品の借用契約に係わる実務とその留意点について、当館研究紀要(第1号2023年)において「海外からの美術品借用に関する契約上の留意点」と題する小論文を公開し、知見の公開及び共有を図った。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名 SOMPO 美術館、NHK、NHK プロモーション、日本経済新聞社

●収入

内訳	決算額
展覧会収入	42,784 万円
その他の収入	27,000 万円
収入総額	69,784 万円

●支出

区分	決算額
企画準備等基本経費	28,629 万円
設営・運営等会場経費	14,010 万円
積立金(展覧会開催費用等)	27,145 万円
支出総額	69,784 万円